

## 協進レター75号

平成24年3月24日

なかなか春を実感できない今日この頃、毎日の乗務ご苦労様。子供たちも春休みに入り、進級だったり進学だったり、準備に忙しい社員さんもあるかと思います。おめでとうございます。

先日、新聞だったか雑誌だったか、こんな記事に感銘したので書き留めておきました。ご紹介します。

① 歌手今陽子さんが、恩師いずみたく氏の事を書いています。「所詮人気は一時的なもの。それに惑わされない本物のプロになれ！」と、デビュー前から厳しく稽古をつけていただいた。1969年、ピンキーとキラーズを結成してヒット曲にも恵まれた。1973年に解散。その時恩師曰く、「山は登った後は、下るしかない。下る辛さを覚悟して、また次はこれ以上の山には登れないことを肝に命じて、もっともっと本当の力量を磨こう。」

② サッカー選手三浦和良氏のコラム。サッカーは、1-0のスポーツなんだろうと思う。得点はなかなか入らない。地道にボールをつなぎ、細かく守備をやり、1点入るのが最後の数分、それでOK! これがまどろっこい、割に合わないと感じる人もいる。それでも、「コツコツ続けた先に一つの善いことがある」という発想なんだ。あと点1、いやワンプレーの差で全てが終わる。タラレバをいくら並べてみても

ひっくり返らない。それが勝負の厳しさ。この世界には、消化試合もなおざりにできるプレーの一つもない。そう感じなければプロを辞めるべきだ。

③ 五木寛之の新書「下山の思想」今、未曾有の時代が始まろうとしている。気付かなかったのではない。気付いていながら、気付かないふりをしていたのだ。時代は、「下山の時」である。山に登るということは3つの要素があると思う。1つは山に登ること。2つ目は山頂を極めること。3つ目は下山することである。山は下りてこそ、次の山頂を目指すことができる。

まさに「今の日本社会のありよう」、「業界が抱える問題」、「会社の現況」、「自分の今」に、ピッタリくる話だな一つ、感じています。これを読んだ皆は、どんな感想を覚えますか？

平成23年度末にあたって、会社の現況について報告させていただきました。平成24年度の方針についても、伝えさせていただきました。私達にとって、「もっともっと本当に磨かないといけない力量」を磨きましょう。「あたりまえにこなさないといけない仕事」を、何一つなおざりにせず、コツコツとやり続けましょう。私達には、次の山頂を目指すチャンスが来ました。「登るのがいやだなあー」なんて言わないで、登りましょう。

今号も最後まで読んで下さいましてありがとうございます。